

佐渡の観光需要促進に関する一考察

Promotion of Tourism on Sado Island

森 住 正 明
Masaaki Morizumi

目 次

序

第1章 アクセスの現状

I 航路

II 航空

第2章 アクセスの評価

I 3航路の比較

II 運賃

III 航空輸送の可能性

第3章 来島客増加のための提案

結 語

序

日本国内全体の観光消費動向をみると、宿泊を伴う旅行が減少傾向にある。

これは、昨年以降については、東日本大震災の直接間接の影響もあろうが、被災地に限らず従来型観光資源に頼る観光地が一部の例外を除いて、近年どこも直面している問題である。

日本列島を形成する島々は、日本が島国であることをそれぞれに主張し、それぞれの経済活動の中において島民の生活が成り立っている。大都市圏を複数持つ北海道、本州、四国、九州においては、都市と過疎地における生活、経済のインバランスが顕著なものとなり、特に過疎地高齢者の生活が立ち行かなくなり、「限界集落」の語はもの悲しさが漂うほどである。

公共交通機関が無く、棚田しか耕地がとれない地域に居住、生活することを当然に続けろというのは暴論であるが、そうした土地にも価値を見出し、国民全体の資産として活用し、エコツーリズム、グリーンツーリズムの対象地、または、近隣市街地住民のふるさと里山としての位置づけも考えられよう。

繁栄する都市圏に対し、衰退する地方都市の構図は、日本国民全体の人心のありかたについて疑問を投げかけている。

他方、それぞれに状況は異なり、全てを離島の語で括るのは妥当性を欠くが、多くの島は、距離感を根拠に離島と認識される。そこにおいては、現実生活を成り立たせるための各分野における公的補助の